

悠久遊戯湖畔ハーレクィナード「燃え逝く暁」

雪咲

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

少女達の盤上の楽園。塔の灯りが照らす、終わらないお茶会の中で。

——あなたも、一緒に遊びましょう？

「さあ、最後に笑うのは一体だあれ？」

※これはFate／grand order Epic of

Remnantの二次創作です。この物語には以下の要素が含まれます。

- ・オリ主人公
- ・オリ鯖
- ・ご都合主義や展開
- ・原作キャラ崩壊

・1. 5部のネタバレや今までの話のネタバレ

以上の要素、そしておそらく追加される要素が苦手な方はブラウザバックをお願いします。

始めましょう、これは語られなかった物語の断片。//存在しない物語//より現れた彼女の物語。

目次

「対局・2つの針の分岐点」

「対局・2つの針の分岐点」

子供が誰しも一度は願う願い。

『ああ、ずっと子供のままなら、何て素敵な事でしょう』と。

終わらないお茶会で遊び続ける子供達、覚めない夢を見続ける物達。

ええ、きつと——。

それが許されないからこそ、私が召喚よぼれたのでしよう。

※

「かいたいするよ!」

↓おはよう、ジャック。

「うん、お母さん。えつとね、ダヴィンチちゃんが呼んでるよ?」

分かった、今行くよ

↓ジャックも、一緒にいく?

「うん!」

俺はジャックの手を取って、二人で管制室へと向かう。その途中でナーサリー・ライムや茨木童子、ふーやーちゃんが付いてきて、最終的に大所帯になってしまったけど。

管制室の中に入ると、既にダヴィンチちゃんとマシユがスタンバイしていた。

↓おはよう、マシユ。今日も可愛いね。

「おはようございます、先輩。その……ありがとうございます。大変嬉しいです。ところで……、そちらの皆さんは?」

一緒に付いてきたサーヴァント達が口々に理由を語っていく。

「お母さんと一緒に来たの!」

「お菓子があると聞いたのでな!」

「皆が居たので付いてきたのじゃ!」

「……………」

↓ナーサリー？

「なんでもないわ、なんでもないの」

少し、ナーサリーの様子がおかしい。どこかを見つめている様な表情で、瞳が揺らいでいる。

↓大丈夫？ 無理しなくていいんだよ。

少し、休む？

「大丈夫よ、マスター。これくらい、へっちゃらだもの」

一応、ナーサリーの状態は気にかけておくことにする。

「それでダヴィンチちゃん。私達を召集した理由は何ですか？」

マシユの質問にダヴィンチちゃんは何時もの様子で答えるのであった。

「よくぞ訊いてくれました。——新しい特異点が見つかったのさ」

*

「それで、今回はどの様な特異点なのですか？」

マシユがダヴィンチちゃんに訊ねると、ダヴィンチちゃんが特異点の画像をいくつか出して説明を始めた。

「場所は18世紀後半のイギリス、場所は正確に導き出すことはできなかった。どうやら正方形状に特異点が形成されている様だね」

↓イギリス……だからジャックちゃん？

イギリス……だからナーサリーちゃん？

「そういうことでもある。今回呼んだ二人には『知名度補正』がかかっている。けれどももう一つ理由があつてね——この特異点はどうか子供達の世界らしい」

「子供達の世界、とは？」

ダヴィンチちゃんがいくつか撮影できたらしい特異点の映像を映し出す。そこにはお茶会を開いている子供達の画像と、幽霊に襲われている大人の画像だった。

「こちらからの撮影は残念ながら殆どシャットアウトされて、映す事の出来たものは少ない。その中でもこの二つはあまりに対照的だ——

「恐らく、この特異点では『子供である事が有利に働く』のかもしれない」

↓だから、ジャックちゃんとナーサリーちゃんなんですね。

「その通り！ それにマスターであるキミとマシユの四人で今回のミッションを行うこととする。では、1時間後にレイシフトを行うので、各々は準備を行って欲しい」

「了解です。ダヴィンチちゃん」

マシユがそう言つて、管制室を出ていく。今回のレイシフトに持つていく荷物を纏めにいった様だ。そのマシユと入れ替わりに、管制室に入ってきたのはエミヤだった。

「マスター、サンドイッチを作っておいた。持っていくといい」

渡された自分達用にサンドイッチのお弁当を受け取り、自分も自室へ荷物を用意しに行く。

そして、気付けば自分は地面に寝転んで空を眺めていた。あの後——どうしたのだろう。そうだ、準備を負いえた自分達はレイシフトを行って——。

「さ、準備はいいかい？ ——では人理証明を始めよう、レイシフトスタート！」

コフィンの中に入って瞳を閉じる。そして……光が自分達を包み込み——。

バチツ！

「な、何だ！ 何が起こっている！ 暴走？ いや、違う。これは——。兎に角、レイシフトメンバー全員の存在証明を優先するんだ！ じゃないと、恐らく世界に引^ひ張^はられる！」

↓マシユ！

ジャックちゃん、ナーサリーちゃん！

「先輩——ッ！」

レイシフト内で弾かれるようにマシユ達との距離が離れていく。

そう。自分は、三人とはぐれてしまったのだ。